

令和6年度事業報告書

私達の生活に多大な影響を及ぼした新型コロナウイルス感染症が、令和5年5月に季節性インフルエンザと同じ5類感染症に位置付けられ、コロナ禍から脱却し新たな社会、生活様式に移行したことから、田辺市社会福祉協議会におきましても従来の事業を基本的な感染対策の基に実施しました。

全国的に視野を移しますと、令和6年元日に発生した「能登半島地震」9月の「奥能登豪雨」や梅雨前線の影響による東北地方の日本海側を中心とした記録的な大雨、異常気象とも感じさせる日本各地における線状降水帯等による局地的な豪雨も発生しました。

社協が目指す「地域共生社会の実現」は地域福祉の向上・推進ではありますが、近年災害復旧の取組みから「能登半島地震、奥能登豪雨」へ災害時相互支援協定に基づき社協職員を現地に派遣し、災害ボランティアセンターの運営等の被災地支援に取組みました。

コロナ禍は下火となりましたが、季節性インフルエンザの罹患者が増加する中、社協の基本業務の地域福祉事業では活性化及び効果と感染予防の両方の視点を常に意識しながら、多様な地域福祉事業の展開に取組みました。

一方、社協のもう一つの柱であります介護保険事業を始めとする在宅福祉事業につきましても感染予防を徹底しつつ、在宅福祉のサービスの低下を招かぬよう事業展開に取組みました。

市民総合センターの整備に関しては、継続した市担当部署と連携を深め、社協の事務局機能の在り方や効率的な各福祉事業の展開を行えるよう検討しました。

介護保険事業等の経営面や人材確保など依然課題は残されていますが、市関係各課と連携、協力し地域共生社会の実現のため課題解決に取組み、法に定められた社会福祉法人としての責務を遵守しながら、社協に求められる公共性・公益性と事業継続性を担保しつつ、健全かつ合理的な運営と地域福祉向上の推進に取組みました。

Ⅰ 地域福祉を支え合える人づくり・つながりづくり

地域包括ケアシステムの構築を図るために、日常生活圏域ごとに配置している生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）が中心となって、新しい生活様式のもと、住民や多様な生活支援を担う方々と連携しながら、日常生活上の支援体制の充実及び高齢者の社会参加の推進に努めました。併せて、ホッと講座、いきいきシニアリーダーカレッジ、ボランティアスクール等各種研修会を開催し、ボランティア意識を育てる取組や啓発活動を進め、地域づくりの担い手の育成に努めました。

また、紀南福祉人材バンクでは、慢性的な福祉人材の不足と定着率の改善を図るために、福祉の魅力を伝える啓発活動を行うとともに、ハローワークへの出張相談や介護未経験者等を対象にした就職セミナーそして福祉職場への見学会を実施することにより採用に繋げることができました。

(1) 地域福祉・ボランティア活動等の支援と協働促進

①ボランティアの楽しさを伝える取組

(ア)ホッと講座の開催（よりみちサロンいおり） 11 回開催 受講者 延べ 100 人

(イ)あそびのきょうしつの開催（よりみちサロンいおり）

9 回開催 参加者 延べ 85 人

(ウ)ボランティアスクール・各種ボランティア啓発講座の開催

・ボランティア講座及び防災研修等

5 回開催 受講者 延べ 235 人

②ボランティアを育成する取組

(ア)生活支援体制整備事業の運営

・生活支援コーディネーターの配置（全地区）

＊総合事業基準緩和型サービス事業研修の実施

ご近所ボランティア講座

4 回開催 修了者 13 人

＊協議体の設置～生活支援体制整備検討会議の開催（全地区） 計 17 回開催

＊生活支援コーディネーター実践研修会

3 回開催 参加者 延べ 6 人

＊生活支援体制整備事業の進め方に係る会議

参加者 延べ 9 人

＊生活支援体制整備事業の進め方に係る規範的統合会議

参加者 10 人

＊生活支援体制整備事業における協議体連絡会

1 回開催 参加者 17 人

(イ)いきいきシニアリーダーカレッジの開催（和歌山県社協、田辺市共催）

・ささえあいコース（田辺市民総合センター）

9 回開催 受講者 33 人

・紀南の魅力発見コース（田辺市民総合センター）

9 回開催 受講者 42 人

③ボランティアのマッチング

(ア)ボランティア登録、紹介とあっせんの活動支援

・登録者 276 人、紹介とあっせん数 延べ 742 人

・その他のボランティア等相談支援 合計 31 件

(イ)ボランティア保険加入促進

・ボランティア活動保険 加入者 1,878 人

・ボランティア行事用保険 36 件 ・福祉サービス総合補償 5 件

・サロン・社協行事保険 31 件

④福祉団体及びボランティアグループの支援

(ア)老人クラブの運営支援（龍神、中辺路、大塔、本宮）

(イ)住民参加型在宅福祉サービスの活動支援

・田辺市ともしび友愛ヘルプの会の活動支援（田辺地区）

提供活動 617 件、提供時間 1056.5 時間、利用会員 21 人、提供会員 24 人

⑤田辺市ボランティア連絡協議会の充実強化

- ・正副会長会議（和歌山県立情報交流センターBig・U、8月25日、出席者8人）
- ・シニア防災ボランティアシンポジウム in 和歌山～地域福祉フォーラム
（2の（3）②に詳細）への参加協力

（2）気づきと出会い、学びの場づくり

①小中高等学校への福祉教育支援活動の実施

（ア）小中高等学校における福祉教育プログラム支援活動

当事者やボランティア、社協職員を福祉教育の講師として派遣しました。また、施設訪問のコーディネート、社協施設への受入れを行いました。

- ・支援件数 29校 96回（小学校 20校、中学校 6校、高校 3校）

（イ）小中学校向け福祉教育推進助成制度の運用

- ・こどもボランティア推進事業助成（677,222円）
＊助成 25校（小学校 21校、中学校 4校）
- ・福祉教育推進校連絡会助成（100,000円）

（ウ）福祉教育担当者教諭を対象にした研修会（8月5日、田辺市民総合センター）

参加者 38人

- ・説明「福祉教育の推進と充実について」 田辺市教育委員会
- ・「知的・発達障がいへの理解」 田辺市社会福祉協議会
- ・講演「康介とともに」

講師 土曜日親子サークル カンガとルー 代表 土永真砂子氏

（エ）福祉教育教材の配布

（オ）福祉教育機材の貸出し～高齢者疑似体験セットの貸出し

②広報活動や研修活動の強化～地域における福祉教育

（ア）市民福祉映画会の実施（11月17日、田辺市共同募金委員会・（株）紀伊民報共催）

- ・「お終活 再春！人生ラプソディ」上映 2,025枚販売 入場者数 1,681人

（イ）「明日へのかけ橋フォーラム」及び「ふれあい文化祭」の開催

- ・「明日へのかけ橋フォーラム」の開催（2月15日、ガーデンホテルハナヨ）

第1部 社会福祉功労者表彰式 来場者 75人

第2部 パネルディスカッション「新庁舎におけるカフェ・カミィーノの実践報告～地域共生社会の実現に向けて～」

＊概要説明

社会福祉法人ふたば福祉会 理事長 米川 徳昭氏

田辺市やすらぎ対策課 障害福祉室 参事 栗山 崇氏

田辺市社会福祉協議会 地域福祉課 主任 龍田 俊夫

（西牟婁圏域自立支援協議会所属）

＊メッセージ～カフェ・カミィーノから皆さまへ

カフェ・カミィーノ専属スタッフ 橋本 智佐氏及び働く仲間の皆さん

- ・「第31回ふれあい文化祭」の開催【会場開催】

日 時 令和7年2月15日・16日

場 所 ガーデンホテル ハナヨアリーナ

来場者 延べ4,766人

＊舞台発表、作品展示、活動紹介展示、体験コーナー、物品販売、模擬店等

＊参加協力企業・団体・事業所数 201 団体

(3)福祉人材の育成・定着支援

①福祉人材バンク運営事業（福祉人材無料職業紹介事業の実施）

(ア)求人相談件数 746 件、新規求人数 1,289 人

(イ)求職相談件数 505 件、新規求職者数 199 人

(ウ)紹介数 36 人、就職数 26 人

(エ)紀南福祉人材バンク運営協議会開催 3月19日 出席者 7人

②介護人材マッチング機能強化事業

(ア)福祉・介護・保育のしごとフェアの実施

- ・福祉・介護・保育のしごとフェア（2回開催、田辺市）

福祉施設・事業所と福祉職場に就職を希望する方に会場面談やオンライン面談の場を設けながら、福祉職場への就労支援や人材確保を図りました。

＊来場者 65 人、参加施設 48 施設、内定者 10 人

- ・福祉・介護・保育のしごとフェアの実施（1回開催、新宮市）

＊来場者 4 人、参加施設 8 施設、内定者 1 人

(イ)介護の仕事未経験者向け介護基礎研修会・就職相談会（2月1日開催）

介護未経験者を対象にした介護基礎研修会を開催し、研修終了後には「福祉・介護・保育のしごとフェア」に参加していただき、就職に向けたマッチング支援を行いました。

＊来場者 4 人、内定者 1 人

(ウ)学校訪問、福祉のしごと出張講座

- ・学校訪問 延べ 20 校 出張講座 6 校

(エ)福祉の仕事 ハローワーク等へ出張相談の実施

- ・ハローワーク田辺・新宮 年 17 回、参加者 延べ 33 人

- ・Uターンフェア・介護の就職説明会等 年 5 回、参加者 延べ 4 人

(オ)介護職未経験者向け就職セミナーの実施（講師：和歌山県介護福祉士会）

- ・ハローワーク田辺、ハローワーク新宮共催

＊ハローワーク田辺 6 回開催 参加者 46 人

＊ハローワーク新宮 5 回開催 参加者 20 人

(カ)職員の定着促進及びキャリアアップ支援

- ・福祉の「しごと塾」開催

*介護支援専門員受験対策講座 6回 受講者 12人(うち1人合格)

*介護福祉士受験対策講座 6回 受講者 7人(うち2人合格)

*社会福祉士受験対策講座(開催最小定員に満たなかったため開催中止)

(キ)福祉の仕事 職場体験の実施

・福祉職場見学会 2回開催

1回目:介護老人保健施設自彊館、デイサービスセンター自彊館

参加者 4人

2回目:介護老人保健施設成華苑、デイサービスセンター南紀

参加者 4人

(ク)福祉の仕事イメージアップ事業

・広報紙による福祉・介護の仕事のPR

・「介護の日」PRキャンペーンの実施(11月11日)

③保育士人材確保事業

(ア)保育所訪問 17か所、学童保育所 6か所 *電話対応、見学含む

(イ)潜在保育士再就職支援研修(9月12日)

参加者 延べ6人

(ウ)潜在保育士向け勉強会及びしごと相談会(6月26日)

参加者 6人(就労者も含む)

(エ)保育所見学

参加者 延べ8人

(オ)保育士なんでも相談

(カ)保育士・保育現場の魅力発信事業への協力

2 地域福祉を支え合えるしくみづくり

地域共生社会の実現に向けて、顕在化した個人や世帯単位での複合的な地域生活課題に対応するために、公的機関や専門職又は地域の様々な関係者と連絡調整を図りながら相談支援体制の充実に努めました。

また、権利擁護体制の構築に積極的な対応が求められる中、「権利擁護センターたなべ」の運営を通じて、高齢・障がい分野における一体的な相談対応を行いました。また、法人後見事業、福祉サービス利用援助事業にも積極的に取組み、権利擁護に関する総合相談及び成年後見制度の利用支援に努めました。

生活福祉資金特例貸付については、償還免除・償還猶予等の業務が行われる中、借受人の世帯に対する生活状況に応じた償還や生活再建に向けたフォローアップ支援を行いました。この他、地域福祉推進のための体制強化と財源確保にも引き続き努めました。

(1)地域生活を支援する相談機能の充実と連携の促進～包括的な相談支援の充実～

①地域型地域包括支援センター運営事業の運営

(ア)専門職の配置(保健師及び社会福祉士並びに主任介護支援専門員)

(イ)総合相談件数 龍神 227件、中辺路 140件、大塔 202件、本宮 177件

(ウ)小地域ケア会議の開催・運営

龍神 6 回、中辺路 6 回、大塔 6 回、本宮 6 回

(エ)介護予防ケアマネジメント

龍神 1,050 件、中辺路 1,217 件、大塔 778 件、本宮 1,009 件

(オ)実態把握調査総件数

龍神 1,075 件、大塔 413 件 本宮 795 件

②「権利擁護センターたなべ」の運営

(ア)福祉サービス利用援助事業の実施

判断能力に不安があると感じている人を対象に、金銭管理や福祉サービスの利用に関する相談援助事業を実施しました。成年後見制度への移行の必要性を検討するケース会議（多機関検討会議）を開催し、成年後見制度へのスムーズな移行に関する体制の整備を行いました。

・新規契約者 10 人(高齢者 7 人、障がい者 2 人、その他 1 人)

・令和 6 年度末利用者 98 人(高齢者 41 人、障がい者 55 人、その他 2 人)

(イ)法人後見事業の実施

判断能力が十分でない人を対象に法人として成年後見人を受任し、身上監護や財産管理の支援を行いました。

・受任件数 2 件

(ウ)成年後見制度利用支援事業の実施

成年後見制度についての相談、助言、情報提供、申立て手続等の支援を行いました。法律・福祉の専門職団体や関係機関との連携を図るために協議体「田辺市成年後見利用促進あんしんネットワーク協議会」を通じて情報共有や意見交換を行いました。また、成年後見制度の普及・啓発のための講座を開催しました。

・相談件数 108 件、あんしんネットワーク連絡協議会 2 回、多機関検討会議 12 回、成年後見支援事業会議 12 回、成年後見制度利用検討会議 3 回、啓発講座 9 回、終活に関する講座 4 回、成年後見制度研修会 1 回、パンフレット作成（2,000 部、関係機関に配布）

(エ)高齢者あんしん生活支援事業の実施

65 歳以上の一人暮らしの方を対象に、身寄りがなく入院や施設入所の保証人等で困りの方に相談支援を行いました。

・契約者 3 人 新規相談 16 件 審査会 2 回（2 件）

③生活困窮者・低所得者世帯等への相談支援

(ア)生活福祉資金貸付事業の実施

他制度で融資を受けることが困難な低所得世帯、高齢者世帯、障がい者世帯を対象に生活福祉資金の相談対応を行いました。また、生活福祉資金特例貸付について、会計検査院実地検査があり、償還免除・償還猶予等の事務作業を行う中、借受人個々の生活状況に応じた償還や生活再建に向けたフォローアップ支援を行いました。

- ・相談件数 延べ 130 件（本則及び特例貸付）
- ・新規貸付決定件数 23 件
（総合支援資金 16 件、教育支援資金 2 件、福祉資金 5 件）
- ・会計検査院実地検査（4 月 17 日）調査官 1 人、県・県社協 3 人、対応職員 3 人
- ・借受人へのフォローアップ支援 734 世帯

（イ）家計改善支援事業の実施

生活困窮者の生活の自立を支援するために、家計の視点から必要な情報提供や専門的な助言・指導等を行いました。

- ・継続支援者 11 人（うち 2 人終了） 支援回数 延べ 300 回

（ウ）生活福祉資金債務世帯等自立支援事業の実施

債務世帯の状況把握、見守り、声かけなどのきめ細かな相談支援を行い、債務者等の生活の安定を図り償還（債権回収）に結びつけました。

- ・重点支援対象債務者 29 人（本則資金債務者 74 人中） ・償還等完了者 8 人

（エ）緊急食料等提供事業（フードバンク）の実施

緊急的かつ一時的に生計の維持が困難となった方に、食料等を提供することにより世帯の自立を促し円滑な社会生活が送れるよう支援しました。

- ・12 世帯提供 緊急食料等提供数 16 食セット

④障がい者を地域で支える取組

（ア）基幹相談支援センター「にしむろ」の運営

- ・基幹相談支援センター等機能強化事業の実施

西牟婁圏域（田辺市・みなべ町・白浜町・上富田町・すさみ町）における相談支援の中核的な役割を担う機関として、本会は基幹相談支援センター等機能強化事業を受託し、相談支援事業の機能強化に取り組めました。

- ・事務局会議 19 回、定例会 11 回、全体会 32 回、就労支援部会 111 回、子ども部会 172 回、精神保健福祉部会 50 回、身体・知的部会 77 回、相談支援部会 77 回、研修・講座開催 10 回、その他 48 回、課題別委員会 91 回 合計 698 回
- ・相談件数 2,705 件

（イ）西牟婁圏域障害児・者相談支援センター「にじのわ」の運営

- ・障害者相談支援事業の実施

ふたば福祉会、やおき福祉会、県福祉事業団と本会の 4 法人が引続き共同で受託運営し、西牟婁圏域（田辺市・みなべ町・白浜町・上富田町・すさみ町）における障がい児・者に関する相談対応を行いました。

- ・個別相談件数 延べ 13,619 件

（ウ）障害者レクリエーション教室（自立生活プログラム）の開催

障がい者が自分らしい生活を実現し社会参加していくために、さまざまな技術や経験を身につけていく教室を開催しました。

- ・障害者レクリエーション教室 18 回開催 参加者延べ 98 人

(エ)一般及び特定相談支援事業の実施

障害者支援施設や精神科病院等からの地域移行・地域定着に向けた取組やサービス等利用計画の作成に取組みました。

- ・サービス等利用計画の作成（新規・更新） 延べ 83 件
- ・モニタリングの実施（サービス等利用計画見直し） 延べ 209 件

(オ)知的障害者等意思疎通支援者派遣事業の実施

知的障がい又は精神障がい者等の意思疎通を図ることが困難な方に支援者を派遣しました。

- ・利用者 3 人 延べ 32 回派遣

(2)地域福祉・ボランティアの情報を分かりやすく伝える取組

①広報「福祉日和」の発行

- ・年 11 回発行（11・12 月合併号） 34,500 部／回

②点字・広報吹き込みボランティアによる定期的な支援の実施（合計 11 回）

③和歌山放送、F M T A N A B E 等各種報道機関への積極的な情報の提供

④ホームページ、S N S（facebook、Instagram、LINE）での福祉・ボランティア情報の提供

⑤イベントの開催等による広報啓発活動の実施

⑥サロン活動やミニ懇談会等の「ロコミ」による情報提供の実施

(3)地域福祉を支える基盤づくり

①安定的な財源の確保及び共同募金運動の推進～福祉委員連絡会との連携

各種福祉事業へのボランティア協力をはじめ、社協会員の増強や赤い羽根共同募金運動などに積極的な取組を行いました。

(ア)社協会員

- ・会員会費 6,011,480 円（一般・団体・法人会員）

(イ)赤い羽根共同募金運動

- ・令和 6 年度募金実績額 7,447,005 円

・街頭募金運動

田辺地区（10/1・2・6）、龍神地区（11/23・24）、中辺路（11/3）、大塔地区（10/1）、本宮（11/24）で実施

- ・共同募金助成金 3,624,000 円

②役職員等への研修推進

(ア)田辺市福祉委員連絡会の開催（6 月 27 日）

市内 12 地区正副福祉委員長参加～「田辺市役所新庁舎内見学」

(イ)シニア災害ボランティアシンポジウム in 和歌山～地域福祉フォーラムの開催（8 月 25 日）

- ・主催 和歌山県、一般財団法人地域社会ライフプラン協会
- ・共催 田辺市民生児童委員協議会、田辺市福祉委員連絡会、田辺市ボランティア
連絡協議会、田辺市社会福祉協議会 参加者 285 人

*メイン会場 和歌山県立情報交流センターBig・U 多目的ホール

*オンライン視聴会場 中辺路保健センター

*講演会

内容 「非常時に備えた普段からの地域づくり

シニア層にボランティアとして期待すること」

講師 特定非営利活動法人にいがた災害ボランティアネットワーク

理事長 李 仁鉄氏

*パネルディスカッション

「ボランティア活動とこれからの課題～災害時にもシニアのチカラとキモチを
分かり合おう～」

○コーディネーター

和歌山県社会福祉協議会 災害ボランティアセンター 所長 南出 考氏

○パネリスト

●地域における防災への取組について 古尾自主防災会 松田 剛人氏

●石川県七尾市での被災地支援を通じて

日本防災士会和歌山県支部 支部長 早稲田 眞廣氏

●石川県羽咋市災害ボランティアセンターの運営支援について

田辺市社会福祉協議会 主任 手谷 雅樹

(ウ)市町村地域福祉主管課長・社会福祉協議会事務局長会議(11月11日 ビッグ愛)

参加者 2人

・「災害にも強い地域づくりを目指して～災害派遣福祉チーム(DWAT)～」

和歌山県 福祉保健部 福祉保健政策局 社会福祉課 地域福祉班

・「災害ボランティアの大切な役割について」

和歌山県社会福祉協議会災害ボランティアセンター

・「令和6年度能登半島地震における和歌山 DWAT の活動報告」

有限会社 vivifala 島ゆかこ

・「災害ケースマネジメントについて」

和歌山県 福祉保健部 福祉保健政策局 社会福祉課 地域福祉班

(エ)市町村社会福祉協議会会長会議への参加(12月19日 プラザホープ)参加者 2人

「特例貸付借受人等生活困窮者への支援について」

和歌山市社会福祉協議会

「能登半島地震災害・豪雨災害支援について」

和歌山県社会福祉協議会災害ボランティアセンター

「地域共生社会の実現に向けた取組～企業と連携、こども食堂応援ネットワークの支援
～」及び「社協基本要項改訂について」～

和歌山県社会福祉協議会

(オ)市町村社会福祉協議会役職員研修会及び地域福祉推進フォーラム(1月30日プラザ

ホープ)参加者 4人

・業務課題別検討会報告

(1)人材確保・人材育成 (2)地域共生社会の実現に向けた取組の具体化 (3)災害時の社協活動 (4)生活課題への取組 (特例貸付借受人等生活困窮者への支援)

・基調講演 摂南大学 現代社会学部 講師 上野山 裕士氏

＊活動報告

(1)「着なくなった学生服をいかしてこどもたちの未来を応援」

NPO 法人はぐくみ 制服リユース SHOP KAKAYA 代表 木野 歩美氏

(2)「居場所としての子ども食堂」

認定NPO法人 ハートツリー 理事長 松下 泰子氏

(3)「誰もが住み続けられる街を目指して」

社会福祉法人千翔会 施設長 高垣 千恵氏

(4)「ゆるやかなプラットフォームづくり～福祉教育機能を活かして展開～」

社会福祉法人有田市社会福祉協議会 事務係長 宮本 朋子氏

＊コーディネーター&コメンテーター

摂南大学 現代社会学部 講師 上野山 裕士氏

3 たなべあんしんネットワーク活動の推進

社協がこれまで進めてきた包括的な相談支援〈総合相談〉、そして福祉委員等による見守り活動〈参加支援〉、居場所の提供〈地域づくりに向けた支援〉を一体的に実施し重層的な支援を行うことにより、地域住民の生活課題等の発見や解決に努めました。

また、全国的に地震や台風、豪雨災害等が頻発する中、令和6年能登半島地震による被災地職員派遣を行いました。災害時の支援体制づくりとして、小地域福祉活動を軸に広域にわたる連携事業を通じて災害ボランティアセンターの運営方法等を再確認し協力・支援体制の構築に努めました。

(1)日常生活圏域におけるコミュニティづくりの推進と活動支援

①小地域単位のコミュニティづくりの推進～市内12地区の福祉委員会活動における福祉活動支援～

(ア)見守り・声かけ支援

- ・年末見守り支援
- ・登校時の子ども見守り活動
- ・愛の日事業
- ・ボランティア温泉宅配事業
- ・ふれあい型配食サービス事業

(イ)地域の交流支援～ふれあいいきいきサロン活動等の支援

- ・花ボランティアとの集い
- ・やすらぎの集い

(ウ)子育て世代の交流支援

- ・ほっとスペース
- ・ベビーマッサージとママサロン

(エ)地域性を重視した支援

- ・福祉用具リサイクル事業 ・霊柩車の運行（火葬送迎）
- ・介護用品のあっせん

②住民交流活動拠点の機能強化～多世代交流・多機能型福祉拠点

（ア）常設型地域リビング[よりみちサロンいおり]の充実強化

- ・開館日数 305 日 年間利用者数 7,216 人（1 日あたり 23.7 人）
- ・障がいのある若者の就労支援～コミュニティカフェの実施
- ・まめひこカフェ（認知症カフェ）、ホッと講座、あそびの教室、福祉のしごと塾、みまもるーむ（成年後見制度出張相談会）等

（イ）巡回型地域リビングへの支援

- ・ふれあいいきいきサロンの開催、子育てサロンの実施

（ウ）田辺市庁舎内売店運営協議会への参加

- ・新庁舎内カフェ（カフェ・カミィーノ）運営の実施
ふたば福祉会、やおき福祉会、南紀のぞみ会、はまゆう作業所と本会の 5 法人が協働で運営し、障がい者の就労の場・つながり・交流の場づくりに努めました。

③重層的支援体制整備事業に関する調査研究

（ア）田辺市との定期的な情報共有 計 5 回開催

（イ）研修会への参加 参加者 64 人（内 本会 15 人）

内容 「重層的支援体制整備事業について」～誰ひとり取り残さない地域を目指して～

日時 令和 6 年 12 月 19 日(木)

主催 西牟婁圏域自立支援協議会

場所 和歌山県情報交流センターBig・U 多目的ホール

講師 大阪教育大学教育学部教育協働学科教育心理科学講座

学院教育研究科教育ファシリテーションコース 特任教授 新崎国広氏

東大阪市役所 地域福祉課 主査 大西さゆり氏

東大阪市社会福祉協議会 角田総合老人センター 重層 C S W 柏原幸代氏

（2）地域福祉活動推進等にかかる各種助成制度の充実

①社協会員会費を財源とした各種助成による福祉活動支援

（ア）地域福祉活動推進助成 18 件（449,667 円）

（イ）福祉団体等活動助成 9 団体（1,287,623 円）

（ウ）重度障害者福祉タクシー券の交付

利用者 126 人 1,664 枚発行 合計 844,760 円（内、会費 422,380 円）

（3）地域を基盤とした防災活動の推進

①災害時に備えた体制の強化

(ア)避難行動要支援者等への日頃からの声かけや見守り活動の実施

(イ)緊急連絡カードの配布～行政・民生児童委員協議会・自主防災会等と連携

(ウ)「社会福祉協議会における災害時の相互支援協定」に基づく災害救援活動

・令和6年能登半島地震による被災地職員派遣（石川県七尾市）

＊石川県七尾市災害ボランティアセンター運営支援の職員派遣

期間：5月3日～9日、5月31日～6月6日 各クール1人派遣

＊石川県七尾市災害ボランティアセンター・ボランティア～西牟婁圏域社協連携

期日：7月14日

被災地支援のため20人参加（西牟婁圏域社協職員の内、本会より5人参加）

(エ)資機材の配置 田辺ライオンズクラブより発電機4台の寄贈

（龍神地区、中辺路地区、大塔地区、本宮地区）

(オ)自主防災会組織運営助成制度 助成金交付決定数 8件（79,091円助成）

②防災啓発活動の推進、防災訓練の実施

(ア)災害時相互支援訓練（災害ボランティアセンター設置運営訓練）の実施

シニア災害ボランティアシンポジウム in 和歌山の開催（8月25日）【再掲】

(イ)西牟婁災害対応訓練事業の実施（1月25日）

参加者 55人

場 所 和歌山県立情報交流センターBig・U 多目的ホール

講 義 「災害ボランティアセンターとは」和歌山県社会福祉協議会

＊ワールドカフェ方式による「ボランティアセンターの流れと各6つのセクションを学ぶ」

(1)ニーズ受付・現地調査(2)ボランティア募集・申込み(3)当日受付(4)マッチング・オリエンテーション(5)車両・資機材(6)報告

(ウ)自主防災会・福祉委員会共催による防災訓練への参加（中屋敷町内会・むつみ町内会）

(エ)広域・同時多発災害対応訓練【紀北ブロック】への参加（2月23日 県社協共催）

会場：和歌山市災害ボランティアセンター、海南市災害ボランティアセンター・下津サテライト、紀の川市災害ボランティアセンター

参加者 5人

③災害時の要配慮者支援

(ア)地域の避難行動要支援者の把握

(イ)災害ボランティアの確保

(ウ)自主防災組織との連携や情報交換

4 在宅福祉事業の運営

令和6年度は介護報酬が改定され、処遇改善加算の一本化や基本報酬の一部引き上げが行われましたが、高齢者人口の減少等に伴う利用者の減少や慢性的な介護・看護の人材不足により事

業全体では厳しい状況が続きました。

この状況の中、各事業間の連携を強化することで人材を適切に配置するとともに、経営の効率化のため事業の統廃合と再編を行い、利用者の減少と看護師の確保が困難となっていた龍神地区の訪問看護事業は本年度をもって廃止しました。

また、介護サービスの担い手を確保・育成するため全事業で処遇改善加算を取得し、職員の賃金改善に取組み、法令遵守はもとより知識や専門性を高めるための研修等にも積極的に参加することで、利用者に満足の頂けるサービス提供に努めました。

(1) 居宅介護支援事業（全地区実施）

利用者からの相談や意向に基づき、介護サービス等を適切に利用できるように事業者や関係機関との連携を図りながら実施しました。

また、介護予防サービス計画の増加に伴い、基幹型及び地域型地域包括支援センターと連携して取り組みました。

・居宅介護支援事業	実人数 457 人	延べ人数 3,829 人
・介護予防支援業務	実人数 145 人	延べ人数 1,290 人
・総合事業支援業務	実人数 74 人	延べ人数 609 人

(2) 訪問介護・介護予防訪問介護事業（全地区実施）

在宅の要支援・要介護高齢者等を対象に、障害者総合支援法による居宅介護を含む、生活援助や身体介護等のサービスを提供し、田辺・本宮地区においては介護タクシー事業に取組みました。

また、田辺市より委託を受け、地域生活支援事業等を実施しました。

・訪問介護事業	実人数 169 人	延べ人数 18,013 人
・総合事業訪問介護	実人数 184 人	延べ人数 10,039 人
・介護タクシー事業	実人数 22 人	延べ人数 419 人
・居宅介護事業	実人数 41 人	延べ人数 3,531 人
・同行援護事業	実人数 9 人	延べ人数 374 人
・障害者移動支援事業	実人数 2 人	延べ人数 96 人
・代読・代筆奉仕員派遣事業	実人数 7 人	延べ人数 405 人
・養育支援訪問事業	実人数 3 人	延べ人数 65 人

(3) 通所介護・介護予防通所介護事業（田辺・龍神・中辺路・大塔地区実施）

利用者の心身機能の維持向上や社会参加の機会を提供すると共に、介護者の負担軽減を図ることを目的として通所による介護サービスを実施しました。

中辺路事業所は、「通常規模型」の事業形態を維持し、田辺・龍神・大塔事業所については、規模を縮小した「地域密着型」として運営しました。本年度から介護職員ベースアップ加算を取得し職員の処遇改善に取組みました。

また、田辺市からの受託事業として障害者日中一時支援事業を実施しました。

・通 所 介 護 事 業	実人数	47 人	延べ人数	3,915 人
・地域密着型通所介護	実人数	74 人	延べ人数	4,999 人
・総合事業通所介護	実人数	99 人	延べ人数	4,400 人
・障害者日中一時支援事業 (デイサービス)	実人数	10 人	延べ人数	648 人

(4) 訪問入浴介護・介護予防訪問入浴介護事業（田辺地区実施）

自宅での入浴やデイサービスの利用が困難な状態にある利用者等を対象に移動入浴車による入浴サービス事業を実施しました。本年度から介護職員ベースアップ加算を取得し職員の処遇改善に取組みました。

また、田辺市より委託を受け、身体障害者訪問入浴サービス事業を実施しました。

・訪 問 入 浴 介 護 事 業	実人数	58 人	延べ人数	1,336 人
・介護予防訪問入浴介護	実人数	0 人	延べ人数	0 人
・身体障害者訪問入浴サービス事業	実人数	3 人	延べ人数	194 人

(5) 訪問看護・介護予防訪問看護事業（龍神地区実施）

在宅療養中の高齢者等を対象に、各主治医の指示のもと、本人の状態に応じた看護を提供し、介護と医療の両面から在宅療養者を支援しました。

本事業は近年、利用者の減少等と看護人材不足により厳しい運営が続いたことにより、本年度をもって事業を廃止しました。

・訪 問 看 護 事 業	実人数	10 人	延べ人数	126 人
・介護予防訪問看護	実人数	6 人	延べ人数	100 人
・訪問看護事業（医療）	実人数	1 人	延べ人数	9 人

5 受託事業の運営

田辺市からの受託事業は、全地区で実施する介護予防事業を中心に取組み、田辺市や関係機関との連携はもとより、地域住民の理解・協力を得ながら事業を展開しました。

(1) 介護予防事業（全地区実施）

一般介護予防普及啓発事業は、高齢者等が在宅で自立した生活を継続できるように地域の集会所等において、集団での運動プログラムや啓発等を実施しました。

短期集中通所型サービス事業では、個別の介護予防プランに基づき、介護予防体操や口腔・栄養改善等のサービスを提供しました。

・一般介護予防普及啓発事業	351 回
・短期集中通所型サービス事業	実人数 11 人 延べ人数 179 人

(2) 配食サービス事業（龍神・中辺路・本宮地区実施）

食の自立支援と、高齢者への声掛けや安否確認を目的に実施しました。

・配食サービス事業 実人数 126 人 延べ人数 12,455 人

(3) 保育所給食事業（本宮地区実施）

本宮地区の「ひまわり保育所」へ給食を届けました。

・保育所給食事業 実人数 24 人 延べ人数 6,047 人

(4) 外出支援事業（龍神・大塔地区実施）

公共交通機関の利用が困難な高齢者等に、地域の医療機関への通院を支援しました。

・外出支援事業 実人数 37 人 延べ人数 255 人

(5) 高齢者生活支援ハウス運営事業（龍神・大塔・本宮地区実施）

自宅での生活に不安のある高齢者に、安心して過ごせる居住の場所を提供しました。

・生活支援ハウス運営事業 入居者数 41 人（4施設）

(6) 老人憩いの家管理運営事業（田辺地区）及びうらら館管理運営事業（本宮地区）

老人憩いの家管理運営事業は、指定管理者として田辺地区の「松風荘」「やすらぎ荘」両館において、地域の高齢者の集いの場を提供しました。

うらら館管理運営事業は、本宮地区において地域住民の交流やサークル活動の場を提供しました。

・老人憩いの家管理運営事業 延べ人数 36,666 人

・うらら館管理運営事業 延べ人数 19,339 人

6 法人運営基盤の強化

(1) 法人運営体制の充実と強化

法令及び定款の定めに従い、理事会、評議員会等の適正な運営に努めました。

①理事会・評議員会・運営委員会等の適正な運営

・開催回数 理事会（3回、決議の省略2回）、評議員会（2回、決議の省略2回）、評議員選任・解任委員会（1回）、正副会長会議（6回）、地区運営委員会（4地区各2回）

②監事による会計・業務監査の実施 年1回（5月22日）

(2) 法人運営基盤の強化

地域住民の協力を得て、会員会費、寄付金等の自主財源を確保するとともに、福祉基金の運用益により、地域福祉事業の財源確保に努めました。

①自主財源確保による地域福祉活動の推進

・会 員 会 費 6,011,480 円（一般・団体・法人会員）

・寄 付 金 2,341,340 円（85 件）

・善意銀行預託金 205,000 円（21 件）

・福祉基金運用益による地域福祉事業還元額 2,269,800 円

(3) 職員育成・資質向上に向けた取組

職員研修の実施や外部機関の研修への参加により、職員の資質向上に努めました。また、法令に則り職員健診等を実施し、有給休暇取得の促進により、健全な職場づくりを推進しました。

①職員研修の実施・参加

- ・計245回（内部研修 61 件、外部研修 184 件）参加者 延べ人数 1,004 名
- ・内容 BCP、人権研修、専門職対象研修、成年後見制度利用 等

②健康診断、保健指導、産業医との連携による健全な職場づくり

- ・職員健診・ストレスチェックテストの実施（5 地区）
- ・年次有給休暇取得率 67.1%

(4) 社会福祉功労者の表彰

2 月 15 日、令和 6 年度田辺市社会福祉功労者表彰式を開催し、地域福祉・ボランティアに功績のあった方々を顕彰しました。

- ・表彰 4 名
- ・感謝 1 名、3 団体